

### 第3回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」会議録

1 開催日時

平成25年4月19日（金）

開会 午前9時30分

閉会 午前10時50分

2 開催場所

尾張旭市役所4階 第1委員会室

3 出席者

（市議会議員 19名）

岩橋 盛文、若杉 たかし、相羽 晴光、秋田 進、伊藤 恵理子、伊藤 憲男、  
大島 もえ、片渕 卓三、川村 つよし、篠田 一彦、武田 なおき、花井 守行、  
早川 八郎、牧野 一吉、松本 和夫、丸山 幸子、みとべ 茂樹、森 和実、山下 幹雄

（市職員 6名）

総務部長 森 修、市民生活部長 加藤 雄二、健康福祉部長 若杉 浩二、  
都市整備部長 長江 均、消防長 角谷 昭彦、教育部長 長江 建二

4 欠席者

なし

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

（議会事務局）

議会事務局長 森 重憲

（市職員）

企画部長 川原 芳久、企画課長 石坂 清二、企画課長補佐 山本 和男、  
企画課主査 久野 善之、企画課主査 中川 暢顕、企画課主事 中田 圭

7 議題等

(1) 基本構想（案）について

(2) その他

## 8 会議の要旨

企画課長	<p>本日は、お忙しい中、第3回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから開催させていただきます。</p> <p>まず、開催にあたりまして、企画部長からごあいさつを申し上げます。</p>
企画部長	<p>本日は、ご多忙のところ、第3回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>今回の意見交換会では、基本構想（案）について、ご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>この基本構想は、議会の議決をいただく部分であり、既にご議論いただきました将来の都市像や市政の方向を定めるための基本的な考え方をまとめた、まさに総合計画の肝と言える部分になろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>意見交換会においては、皆さんからご意見をいただき、総合計画をより良いものにしてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。</p>
企画課長	<p>それでは、本日の意見交換会の進行について、企画課長補佐から説明させていただきます。</p>
企画課長補佐	<p>本日の意見交換会は、基本構想（案）について、事前に配布させていただいた資料に基づき、ご意見やご質問をいただくものです。</p> <p>進め方としましては、事務局から配布資料の説明をさせていただき、その後、事前にいただいた質問を事務局にて読み上げ、質問者から補足説明をいただいた後、回答を行います。なお、事前のご質問以外については、最後に随時受け付け、質疑応答を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>今回も、前回に引き続き、試行的にタブレット端末を用意しておりますので、適宜ご活用下さい。なお、端末の数の都合上、2名に1台となっておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、本意見交換会は、公開で行います。意見交換の内容については、記録をとり、その要旨を市のホームページで公開してまいりますので、あらかじめご承知おきいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
企画課長	<p>それでは、議題に移らせていただきます。次第1「基本構想（案）について」でございます。</p> <p>事前に配布させていただきました資料を用いまして、既に内容はご確認済みかと思っておりますので、簡単に基本構想（案）をご説明いたします。</p>
企画課長	<p>先ほどの企画部長の挨拶にもございましたが、基本構想とは、将来の都市像や市政の方向を定めるための基本的な考え方でございます。</p> <p>内容としましては、計画の期間、計画人口、土地利用構想、政策の大綱、まちづくりの進め方が記載してあります。</p>

これから説明しますこの冊子につきましては、本日議員の皆さまからいただいたご意見を踏まえ、必要に応じ修正を行った後に、印刷業者を選定・発注し、レイアウトを調整後、7月1日号の広報誌と同時配布しまして、パブリックコメントで市民の皆さまから広くご意見をいただくものでございます。

それでは、資料の構成から説明いたします。

1ページから6ページまでが構想を検討する際の前段部分、7ページから13ページまでが、基本構想の素案になります。

1ページをご覧ください。「計画策定の趣旨」でございます。

1段落目では、総合計画が総合的かつ計画的に市政運営を図るための長期的なまちづくりの指針であり、全ての施策を網羅した市の最上位の計画であるという総合計画の定義や位置付けを記載しております。

2段落目では、第四次総合計画で導入しました行政評価の考え方を活用し、市民の皆さんに分かりやすい市政運営を図ることを記載しております。

3段落目では、平成23年に地方自治法が改正され、総合計画の基本構想の策定義務は廃止されましたが、将来を見据え長期的な視野に立ち、計画的な市政運営を図るためには、まちづくりの指針が必要不可欠であると判断したとして、計画策定に関する市の考え方を記載しております。

次に2ページをご覧ください。「計画策定の背景」を掲載しております。

まちづくりを進めるにあたっての、本市の特性や私たちを取り巻く社会環境の変化を記載しました。

「1 尾張旭市の特性」では、名古屋市に隣接した通勤通学に便利な住宅都市として発展してきたこと、商業施設や鉄道の整った利便性の高いまちであり、また緑や自然にも恵まれていることから、都市の利便性と豊かな自然環境を備えたバランスのよいまちであることを本市の特性として端的に表現しております。

次の「2 社会環境の変化」では、日本全体を取り巻く環境変化について、「1 人口減少時代の到来と少子高齢化の進行」、「2 社会のつながりの変化」、「3 子どもを取り巻く社会環境の変化」、「4 市民との協働・新しい公共」、「5 安全・安心への意識の高まり」、「6 環境問題の深刻化」、「7 地方分権改革の進展」の7つを取り上げております。

次の「3 尾張旭市の現状」では、「人口の推移と推計」、「財政状況の推移」、「健康都市の取り組み」の3項目を掲載しております。

まず、「人口の推移と推計」では、これまでの人口の推移と機械的に算出した人口推計の値を掲載しております。推計結果としましては、平成32年度までは微増ですが人口増加が進むものの、その後は、人口が緩やかに減少することが見込まれております。

次の「財政状況の推移」では、市の貯金である基金の状況や、市の借金を示す地方債残高、財政の硬直化を示す経常収支比率を掲載し、より一層効率的かつ効果的な財政運営に努める旨を記載しております。

4 ページでは、本市の市政運営に欠かすことのできない「健康都市の取り組み」を記載しております。内容としましては、平成16年8月から取り組みを開始し、本市のブランドの一つとして、定着しつつあります健康都市の考え方や目的などについて記載したものでございます。

5 ページをご覧ください。ここでは「4 市民の意識」としまして、市民意向調査、まちづくりに係る中学生アンケート、校区まちづくり懇談会、団体意向調査でうかがった、市民の方々の意見をまとめております。

上段のアンケート結果からは、住みやすさが評価され、定住志向が高いものの、「ずっと住み続けたい」と回答する割合が低くなっていることや、市の施策に対する満足度・重要度が共に高くなっていることが読み取れたこと、下段の校区まちづくり懇談会や団体意向調査で直接お聞きした結果からは、安全・安心の確保が望まれていることや、地域での支えあう仕組みづくりや、市民との協働が求められていること、行政へのニーズが高度化・多様化していることがうかがえまして、そうした内容を記載しております。

6 ページをご覧ください。こちらでは、「尾張旭市の課題」としまして、第四次総合計画で進行管理を行ってきた内容や、第五次総合計画の策定過程における分野ごとの分析、5 ページまでに記載した「計画策定の背景」などから浮かび上がってきた課題を、8 項目にわたって抽出しております。

なお、各分野の課題につきましては、各政策の大綱と比較できるように、9 ページから12 ページまでに、政策ごとに上段、下段という形で、大綱と併せて記載しております。

次に、同じく6 ページの「計画の構成と期間」でございまして。ここでは、総合計画が「基本構想」、「施策別計画」、「実施計画」の3層で構成されることや、それぞれの期間について記載をしております。

ここまでの、基本構想策定までの前段部分にあたります。

次の7 ページからが基本構想の素案となります。

7 ページでは、「将来の都市像」を掲載しております。

第1回の意見交換会でお示ししました「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」という都市像と、それぞれの言葉に込められた意味を掲載しております。

8 ページでは、「計画の期間」としまして、総合計画が長期的なまちづくり

の指針であることから、基本構想の期間は、平成26年度から平成35年度までの10年間であることを掲載しております。

次に、「計画人口」でございます。先程3ページで説明しました人口推計では平成32年度以降、人口が緩やかに減少していくと説明いたしましたが、将来の都市像に定めます「住みよいまち」をめざし、定住者の増加を図ることで、平成30年度には83,000人を、平成35年度には84,000人の計画人口をめざすことを示しております。

定住者の増加を図るための第一歩の取り組みといたしまして、まずは転入・転出者の意向を把握しようと、市民課窓口において移動される方々を対象に、アンケート調査を行いました。これは昨年末から実施しておりまして、その取りまとめ結果については、先日配布させていただきました結果報告書のとおりでございます。今後も継続してアンケートを実施していく予定でございます。

次に、「土地利用構想」を掲載しております。

将来の都市像を実現するため、本市の持つ歴史的、自然的、社会的特性を踏まえ、それぞれの地域にあったまちづくりを推進することとしまして、「住居系」、「商業系」、「工業系」、「農業系」、「公園・緑地系」の5つに区分し、秩序あるまちづくりを進めていくことを、記載しております。

次に9ページから12ページには、「政策の大綱」を政策ごとに掲載しております。先程説明しました政策ごとの8つの課題に対応しまして、将来の都市像を実現するために、政策ごとに取り組みの方針と、それを実現するための施策を記載しております。

なお、政策－施策の体系につきましては、第2回の意見交換会でお示ししたとおりでございますが、政策は第四次総合計画と同じ8本柱となっており、施策は加除があったものの、結果的に同じ数の36施策となっております。

13ページをご覧ください。こちらでは、「まちづくりの進め方」を掲載しております。政策の大綱で定めた取り組みを着実に進めていくため、念頭に置くべき5つの基本的な考え方を掲げたものとなります。

これらの考え方は、政策全体にまたがって実施すべき考え方であり、「市民との協働を進めます」、「自己決定・自己責任で進めます」、「施設の効率的な管理運営を進めます」、「分野横断的な取り組みを進めます」、「健康都市の取り組みを進めます」の5つを記載しております。

次のページをご覧ください。最後の2ページには、ご意見をお寄せいただく方法と、ページの一部をミシン目で切り取って郵便ポストへ投函出来るはがき

	<p>となっております。</p> <p>なお、意見の提出方法は、このはがきだけではなく、電子メールや直接市役所に持参する方法もご案内しております。</p> <p>はがきでご提出いただく場合、氏名と住所の記載は任意としております。</p> <p>大変長くなりましたが、資料の内容説明は以上でございます。</p>
企画課長	<p>それでは、先程説明しましたように、事前にいただいております質問に答えてまいります。</p> <p>なお、質問事項に関連して補足する内容がございましたら、事務局が質問を読み上げた後に、ご発言をお願いいたします。</p> <p>事前にいただいた質問とは異なる趣旨のご意見、ご質問につきましては、事前の質問に対する回答が全て終わってから発言して下さるよう、ご協力をお願いいたします。</p>
企画課長補佐	<p>それでは、事前にいただきました質問に答えてまいります。質問は3人の方から8項目いただきました。回答順序につきましては、質問を提出いただいた順といたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
企画課長補佐	<p>1項目目は、早川議員からいただいた質問です。</p> <p>この基本構想の期間は、平成26年度から平成35年度とありますが、この間の人口推移はほぼ横ばいです。しかし、高齢化は進むと考えられます。その人口構成を鑑みての素案でしょうか。</p> <p>また、その先第六次総合計画（10年以降の将来）へつながることも考慮しているのでしょうか。</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
早川議員	<p>ありません。</p>
企画課長補佐	<p>議員のご指摘のとおり、平成22年に19.9%であった高齢化率が、平成37年に27.0%になると推計されており、そういった状況を認識したうえで、検討を進めてまいりました。</p> <p>2ページ中段の「2 社会環境の変化」の1点目でも触れておりますとおり、少子高齢化の影響は本市においても捉えるべき大きな環境変化であると認識しており、そういった人口構成を踏まえての素案となっております。</p> <p>この、少子高齢化に対応するための方策を、9ページ以降の政策の大綱において、掲載しています。</p> <p>具体的には、9ページ上段の政策1の大綱の上から7行目で「高齢者が生きがいを持って元気に暮らせること」や「子どもからお年寄りまで誰もが健康で生きがいを持って暮らせる」といった点、10ページ上段の政策3の課題の上から3行目で「高齢化の進行に伴い、誰もが安心して移動することのできる交通基盤の整備が求められています」といった点、11ページ下段の政策6の大綱の上から6行目で「高齢化の進行などの環境変化を踏まえ、身近な地域で買い物ができるまちづくりを進める」といった点、12ページ上段の政策7の大</p>

	<p>綱の上から3行目で「地域のつながりや助け合いを促進・強化する」といった点となっております。</p> <p>また、第五次総合計画以降へのつながりという点では、7ページ上段の将来の都市像のリード文の上から3行目において、「人口減少時代の到来と少子高齢化が進む中で、市民・地域・事業者のみなさんがこの貴重な財産を守り、活かし、次の世代へ引き継ぐ」と記載しております。</p> <p>第五次総合計画を、まずは着実に進めていくことが、その後の10年間にもつながっていくものと考えております。</p> <p>以上が1項目目の質問に対する回答となります。</p>
早川議員	<p>平成37年度に本市の高齢化率が27.0%になるとのご説明がありました。資料をいただいた時点では、このことが明確ではなかったことから質問させていただきました。</p> <p>言葉でぼかしてしまうのではなく、高齢化率も人口の推移と一緒に表記すべきではないかと考えますので、ご検討をよろしく願いいたします。</p>
企画課長	<p>詳細な数値を出すことが必要であることは認識しておりますが、市民の皆さまに資料を見ていただくにあたっては、どこまで細かく掲載すべきかを検討させていただきました。</p> <p>総合計画書の本編には、詳細な数値を掲載していく予定ですが、パブリックコメント版の資料に掲載すべきかについては、内部で検討させていただきたいと思っております。</p>
企画課長補佐	<p>2項目目も、早川議員からいただいた質問です。</p> <p>様々な場面で、「みんなで支えあう」というフレーズが出てきます。</p> <p>現在、自治会加入率は約60%で毎年のようにこの数値は下降線をたどっています。自治会の代表者や各種団体のメンバーが、この下降線を打破しようと努力していることは素晴らしいと思っております。しかし、実際現場では、町内会長や地域の世話役の方の仕事の負担が年々増しているだけではないでしょうか。</p> <p>この調子では、高齢化が進めば進むほど「みんなで支えあう」という言葉は、重荷になっていくような気がします。そのあたりも鑑みて、「みんなで支えあう」というフレーズを使っているのでしょうか。</p>
企画課長	補足があれば、お願いします。
早川議員	ありません。
企画課長補佐	<p>第五次総合計画での「みんなで支えあう」の意味は、7ページ中段左上の吹き出しに書かかれているとおりで、「年齢、性別を問わず、市民、団体、地域コミュニティ、事業者、行政といった本市を構成する「みんな」が思いやりを持ち、それぞれの役割を果たして、全員でまちづくりを進めること」を表しており、議員が指摘された自治会を含んだ「みんな」を指すものとなります。</p> <p>みんなで支えあい、全員でまちづくりを進めていくために、自治会が大きな役割を担っていただき、ご負担になっていることは十分認識しております。</p>

	<p>今後、高齢化が進むことから、若い世代の方にも支える側として参加していただけるようにするために、12ページ上段の政策7の大綱の下から2行目で「人と人とがふれあい、まちへの愛着をより一層感じられるまちをめざします。」としております。</p> <p>以上が2項目目の質問に対する回答となります。</p>
企画課長	<p>自治会などの団体を支えていただいている方には、高齢者の方が多いですが、もっと若い方々にもまちづくりに参加していただきたいと考え、愛着を高めていく取り組みを進めていきたいと考えているところです。</p>
早川議員	<p>重荷という言葉がポイントであると考えています。それは、各種団体の長になると、団体以外のその他の役も付いてきており、役員の方に高齢者が多い状況を見ると、ハードワークになっています。</p> <p>お話しいただいた若い世代の方を巻き込むことは、良いことであり検討していただく課題であると思いますが、ストレスになっているということを把握していただきたいと思います。</p>
企画課長	<p>こういった方々の取り組みを支える側として、本年度から市民活動課に職員を配置しております。第五次総合計画の始まりを待たずに、これらの取り組みを進めているところでございます。</p>
市民生活部長	<p>今年度から市民活動課に主幹を配置しました。この主幹の役割は次の2つであり、1つは市民活動支援センターの所長としての役割、もう1つは、連合自治会長などの地縁組織の長がどのような仕事をしているか、具体的には、連合自治会長が各課からどのような仕事を依頼されているのか、書類はどこに保管しているのか、自宅を事務所として使っているのかなどの実態把握を行い、まずどの部分を支援したらよいかを検討を進めているところでございます。</p>
企画課長補佐	<p>3項目目は、山下議員からいただいた質問です。</p> <p>1 各回収数の見込み想定はしましたか。</p> <p>ア 返信（受取人払い）の経費見積もりはできていますか。</p> <p>イ 複合的な呼びかけは考えていますか。</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
山下議員	<p>パブリックコメントとして、基本構想（案）を7月1日号の広報誌と合わせて全戸配布することについてですが、この冊子の印刷に係る費用を可能であればお答えください。また、この冊子のほかに何を印刷するのかという内訳をお答えいただきたいと思います。</p> <p>第五次総合計画が上位の計画であり、非常に重要な計画であることは理解していますが、費用対効果の面でお答えいただきたいと思います。</p>
企画課長	<p>本日、詳細な予算に関する資料は持ちあわせておりませんが、総合計画書の本編と全戸配布する予定の概要版と基本構想（案）のパブリックコメント版の冊子の3点を印刷する予定です。</p>
企画課長補佐	<p>アについて</p>

	<p>パブリックコメントの返信用郵便料として、必要な経費を本年度当初予算に計上しております。なお、パブリックコメント実施前に何件程度のご意見をいただけるか見込むことは難しいですが、第四次総合計画の意見募集時には、はがきで49人の方からご意見をお寄せいただきました。</p> <p>イについて</p> <p>基本構想（案）のパブリックコメントにつきましては、広報誌に挟み込みを行い全戸配布するほか、市ホームページや公共施設での配布のほか、市記者クラブへの記事提供を行い、市民の皆さまからより多くのご意見をいただけるよう努力していきたいと考えています。</p> <p>以上が3項目目の質問に対する回答となります。</p>
企画課長	<p>説明を補足いたしますと、郵送のほかメールなども含めて、項目数としては全体で200件程度でした。</p>
山下議員	<p>広報誌とともに基本構想（案）を全戸配布し、全ての方に見ていただくという公平性は理解いたしますが、3月議会の委員会でも16ページの資料を一度に全戸配布するのではなく、例えば部分的に記事を広報誌に掲載してはどうかと意見を述べさせていただきました。</p> <p>また、市ホームページに第五次総合計画の情報は掲載されており、必要な情報が掲載されていると感じましたが、階層が深く、一般の皆さんに分かりにくいので、例えばパブリックコメントを実施している期間は、トップページに関連記事を掲載してはどうでしょうか。</p> <p>市政に対する関心が必ずしも高くない中で、複合的な広報を考えていただきたいと思い質問させていただきました。</p>
企画部長	<p>総合計画は市の最上位の計画であり、市政運営の基本となるものと考えております。従来、パブリックコメントでは市ホームページと公共施設に資料を設置しておりますが、計画の重要性を踏まえ全戸配布を考えたものです。また、広報誌に分割して記事を掲載したとしても、ボリュームが変わるものではありません。</p> <p>意見提出の最近の傾向から、郵送で提出していただくよりも、電子メールなどでいただくケースが多く、今回もそのような流れになるのではないかと考えております。</p> <p>ホームページへの掲載につきましては、情報課と調整することとなりますが、例えばパブリックコメントを実施する際には、実施していることがトップページで分かるようにするなど、検討いたします。</p>
企画課長	<p>パブリックコメントの実施中には、市ホームページのトピックス欄に実施している旨を掲載したいと思います。</p>
山下議員	<p>費用対効果の面から33,000部も印刷する必要があるのかという観点で質問させていただきました。広報誌で要点のみを掲載し、詳細版を公共施設で配布したり、希望者に郵送したりしてはどうかということを意見として述べさ</p>

	せていただきます。
企画課長補佐	<p>4項目目も、山下議員からいただいた質問です。</p> <p>1 行政用語（例えば、3ページの経常収支比率など）の解説の必要性。</p> <p>ア 熟語や用語の市民理解度をどのように検討されましたか。</p> <p>イ イラストの導入率が低いと感じます。</p> <p>2 資料（グラフ等）数値の解説について。</p> <p>ア 4ページ上段の4表の年度を全表合わせるべきではないでしょうか。</p> <p>イ 比較対象（全国比・県内比・近隣市比等）の必要性は議論されましたか。</p>
企画課長	補足があれば、お願いします。
山下議員	<p>行政用語という表現は適切ではなかったかと思しますので、行政で使用する用語というように訂正いたします。</p> <p>行政で使用する用語が資料の中で使っていますが、一般市民の方に理解していただけるかを確認して欲しいと思います。</p> <p>例えば、経常収支比率は、家計に置き換えるとエンゲル係数のようなものというように表現している他市の資料もあることから、行政の仕事を理解していない方や様々な年齢階層の方に分かりやすい表記にしていきたいと思い、質問いたしました。</p>
企画課長補佐	<p>1について、ア、イあわせてお答えします。</p> <p>例えば、3ページ下段の財政状況の推移では、「市の貯金である各種基金」や「財政硬直化の割合を示す経常収支比率」といったような、市民の皆さんになるべく分かりやすい表現を心がけておりますが、やむを得ず使用しているものがあります。議員のご指摘のとおり、用語の解説やイラストの挿入につきましては、本基本構想（案）の印刷のレイアウト段階で必要な修正を図ることを検討しております。</p> <p>2につきましても、ア、イあわせてお答えします。</p> <p>平成24年度の「経常収支比率」につきましては、数値の確定がパブリックコメントの実施後となる見込みですので、記載しておりませんでした。平成24年度の数値が未定である旨を追加します。</p> <p>また、各指標の全国、県内、近隣市比較につきましては、基本構想（案）を作成した段階で必要性の検討を行いました。</p> <p>そこでは、例えば経常収支比率は、愛知県内での比較であれば高い割合ですが、全国的にみれば必ずしも高いとは言いきれないとの意見が出され、本市の置かれている状況の確認は必要ですが、他市との比較ではなく、本市の状況について記すべきとの合意が図られ、現在の表記となった経緯がございます。</p> <p>以上が4項目目の質問に対する回答となります。</p>
山下議員	冊子のレイアウトはこれから作っていくということで理解しました。読んでいただきたくなるようなレイアウトになるよう工夫していただきたいと思えます。例えば、経常収支比率の説明では、行政の知識が無い方にも理解しやす

	<p>いように、70～80%が一般的に健全と言われるラインであり、現在、本市が90%になっているということを掲載することで、さらに分かりやすくなると思いますので、意見としてお伝えします。</p>
企画課長補佐	<p>5項目目も、山下議員からいただいた質問です。</p> <p>1 景気動向について（3ページ）</p> <p>ア 今年に入り景気の見方は、部分的に大きく変化しています。</p> <p>発行時においては不透明ですが、「長引いた景気低迷・・・」等しっかりした過去の事実と、現状把握をした表現が好ましくないでしょうか。（景気が回復基調にあると考える市民も多いのではないのでしょうか。）</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
山下議員	<p>部分的に大きく変化という表現は適切ではなかったかと思しますので、部分的に大きく変化というように訂正いたします。</p> <p>今年に入って、株価や為替の数値が変わってきており、一部の方の意識が変わっているのではないかと考え、質問させていただきました。</p>
企画課長補佐	<p>景気動向につきましては、回復基調にあると考えられる方がお見えになる反面、そうではないと考えられる方もお見えになると思いますので、そのような方にも十分に配慮して記載を検討する必要があると思います。</p> <p>3ページに中段の「7 地方分権改革の進展」の記載では、「国内外の景気低迷による影響を受け、国や地方の財政はひっ迫しつつあり、行財政改革などが推進されてきました」と過去からの状態を表現した内容となっていることから、現在の表現のままとします。</p> <p>なお、11ページ下段の政策6の課題の冒頭に「長引く景気の低迷などにより、本市でも商店及び事業所の廃業や規模縮小が見られ、地域産業の活性化や育成支援が求められています」とありますが、その点につきましては、議員のご指摘のとおり、様々な捉え方をされることが想定されますので、長引くを削除し「景気の低迷などにより」に修正します。</p> <p>以上が5項目目の質問に対する回答となります。</p>
企画課長補佐	<p>6項目目も、山下議員からいただいた質問です。</p> <p>1 子育て世代の流入について（8ページ）</p> <p>ア 偏った言い回しととられないでしょうか。</p> <p>イ 手法の解説（具体性）も表現できれば、理解を得られやすいのではないのでしょうか。</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
山下議員	<p>特にありません。</p>
企画課長補佐	<p>アについて</p> <p>将来を見据え、子育て世代の流入を図っていくことは、今や多くの自治体においても同じことが述べられておりますが、議員のご指摘のとおり、誤解を招きかねない表現であることから、8ページ中段の「計画人口」中の3行目に、</p>

	<p>例えば、「特に」や「中心とした」といった記載を追加し、偏った表現とならないように修正を検討します。</p> <p>イについて</p> <p>人口流入の手法につきましては、これから検討を進めていくところであり、現時点では具体的に定まってはおりません。</p> <p>なお、そのスタートとして転入・転出者の皆さまを対象としたアンケートを実施し、その結果を皆さまにお示しさせていただいたところです。</p> <p>以上が6項目目の質問に対する回答となります。</p>
山下議員	<p>質問に対して、真摯に見直しをお考えいただき感謝します。</p> <p>手法の解説につきましては、市民の方が見た際に「だったらどうするのか」ということが聞かれることはないでしょうか。例えば、基盤整備をさらに充実させることや市民サービスを向上させることなど、資料を見た方が行政の意図をくみ取れるようにしていただきたいという意見をお伝えします。</p>
企画課長補佐	<p>7項目目は、岩橋議員からいただいた質問です。</p> <p>4ページの「従来ならば健康とは無縁であったかもしれない活動領域の人々にも、健康の問題に深く関わってもらい、」という表記が解りづらいので、修正してはどうかと思います。</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
岩橋議員	<p>特にありません。</p>
企画課長補佐	<p>議員のご指摘のとおり、表記が解りづらい部分があるため「体の健康と関わりの深い保健や医療などの分野以外で活動する人々にも、健康の問題に深く関わってもらい」に修正します。</p> <p>以上が7項目目の質問に対する回答となります。</p>
企画課長補佐	<p>8項目目も、岩橋議員からいただいた質問です。</p> <p>本市は公共下水道の整備事業を重点事業として積極的に事業を進めてきたこともあり、市全域で見ると下水道整備に対する満足度は向上したと思われま</p> <p>す。</p> <p>しかしながら、下水道事業の成果は事業の進め方として、地域ごとに差が出てしまう分野であり、一向に事業化の目途が立たない地域の方々の市民感情が直接伝わってくることもあります。やはり、これらの地域の方々のことを思うと、5ページの下水道整備について「満足度が高くなった」との表記は避けたほうが良いのではないかと思います。</p>
企画課長	<p>補足があれば、お願いします。</p>
岩橋議員	<p>特にありません。</p>
企画課長補佐	<p>議員のご指摘のとおり、一向に事業化の目途が立たない地域の方々の市民感情を踏まえ、他の項目で満足度が向上したのものへの変更を検討します。</p> <p>例えば、平成20年度までに耐震改修を終えたことや放課後児童対策が順次進められている「小中学校などの教育環境」の満足度も大きく向上しています</p>

	<p>ので、そうしたものに変更したらと考えております。</p> <p>以上が8項目目の質問に対する回答となります。</p>
企画課長	<p>事前にいただいた質問については、以上で質疑応答を終了いたします。</p> <p>それでは、事前にご提出いただいたもの以外について、質疑応答を進めてまいります。ご意見、ご質問がある方は挙手をお願いいたします。</p>
大島議員	<p>政策3について、今後の公共施設の整理統合についても、将来の展望として記載してはどうでしょうか。</p>
企画課長	<p>公共施設の再編や統合については、政策8の基本事業として「公共施設の効率的な配置」を新設しましたが、基本構想には掲載されないものです。</p>
総務部長	<p>どこの団体においても、ファシリティマネジメントの考え方が進みつつある状況です。ファシリティマネジメントとは、施設の予防的な修繕や古い施設の統廃合などを施設全体として総合的に考えていくことであり、財政課がその事務を所管しております。</p> <p>施設全体を総合的に見るという観点から、個別の政策では無く、政策8（分野横断的なまちづくりと市政運営）に位置付けられているとご理解いただきたいと思っております。</p>
市民生活部長	<p>市民課が取得している人口の推移によると、年度当初の人口が、今年度減少しました。しかし、そのような状況の中で、第五次総合計画は、計画的に人口を増やし、定住者を増加させるという積極的な姿勢の計画となっています。</p> <p>このことから、公共施設を統廃合する発想よりも、用途を変えて市民の皆さまにより使っていただけるようにリニューアルすることが必要と考えられます。その中で、不必要な施設を廃止することもあるとは思いますが、子育て世代等を増やし、バランスよく人口を増やす姿勢であります。</p>
大島議員	<p>13ページのまちづくりの進め方について、自己決定・自己責任という表現は、みんなで支えあうといいながら、矛盾しているのではないかと誤解される恐れがあることから、市が主語となっていることが明確に分かるような表現に変更してはどうでしょうか。</p>
企画部長	<p>説明文の冒頭に、「地方分権改革の進展を受け」と記載されていることから、自己決定・自己責任の意図は、国からの指示を待つのではなく、市が考え、市が実施するということを記したものです。しかしながら、市民の皆さまに誤解されることも考えられますので、改めて検討させていただきます。</p>
牧野議員	<p>7ページの将来の都市像のうち、「住みよいまち」の定義において、本市の良好な住環境を守ると記載されていますが、守るだけではなく、さらに充実させるような表現が必要ではないでしょうか。</p>
企画課長	<p>「住みよいまち」の定義において、「まちの魅力を高める」ことも記載しており、そのことから住環境をさらに充実させていくことを読み取っていただけないかと考えております。</p>
企画部長	<p>「住みよいまち」の定義については、説明のとおりですが、いただいたご意</p>

	見については、改めて検討させていただきます。
森議員	2ページの「1 尾張旭市の特性」において、「豊かな自然環境」という記載がありますが、豊かというリゾート地のような大自然をイメージしてしまいます。また、自然環境の中に、自然災害が少ないまちであることも含めて考えるのであれば、5ページのアンケート結果の分析で記載されている「恵まれた自然環境」のほうが、本市にふさわしいのではないかと思います。
企画課長	記載について、改めて検討させていただきます。
山下議員	東京都調布市では、総合計画策定の進捗状況について、ニュースレターを発行して、月1回程度情報発信をしています。策定の進捗状況を発信する際に参考にしていただきたいと思います、意見をお伝えします。
伊藤（憲）議員	8ページの計画人口において、市ホームページに記載されている平成25年3月末日現在の人口が81,792人となっていますが、推計値や計画値と乖離が生じていないか確認したいと思います。
企画課長	推計値と直近の数値が完全に一致するものではありませんが、大きな乖離は生じていないものと考えております。
篠田議員	はがきを提出する際、住所や氏名は任意の記載となっていますが、ご意見・ご提案の記載事項を見られたくないという方もいるのではないのでしょうか。
企画課長	ご意見をお寄せいただく方法として、方法③で市役所へお持ちいただくこととなっておりますが、公民館などの身近な施設でも提出できるようにすることを考えております。
企画課長	<p>それでは、他にご意見がないようですので、次第2「その他（次回意見交換会の日程）」に進ませていただきます。</p> <p>次回の意見交換会の開催予定でございますが、8月頃を予定しております。議題につきましては、各分野の施策、基本事業の目標値（案）についてご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>日程につきましては、決まり次第ご連絡いたします。</p> <p>それでは、閉会にあたりまして、企画部長よりごあいさつ申し上げます。</p>
企画部長	<p>本日は、ご多忙の折、長時間に渡り多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>本日いただいたご意見を十分に参考にさせていただき、必要に応じて計画に反映させてまいりたいと思います。</p> <p>次回の意見交換会につきましても、何卒よろしく願いいたします。</p> <p>なお、本日の結果につきましては、その要旨及び調整結果等を取りまとめて、後日お送りさせていただきます。</p> <p>皆さん、長時間に渡り、大変お疲れさまでした。</p>
企画課長	これを持ちまして、第3回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」を終了いたします。ありがとうございました。